令和7年度（2025年度）訪問看護推進事業
人材育成に関する研修会　R7.9.10

資源の限られた地域で
地域ケア支援体制の課題を克服するために
～ 訪問看護との連携・期待していること ～

北海道富良野保健所企画総務課
主査（保健推進）本多裕子

1

本日のお話

1　富良野保健所管内の状況

2　在宅ケア支援体制の課題を
　　克服するために取組んでみたこと

3　訪問看護について感じていること、期待したいこと

2

1　富良野保健所管内の状況

看護師も介護職員も不足
確保が難しい

3

富良野保健所管内の人口　等

	面積	人口			世帯数(戸)	65歳以上人口	0~14歳人口	R4年出生数(人口千対)	R4年死亡数(人口千対)
		男	女	計					
富良野市	600.71	9,442	10,507	19,949	10,602	6,973 35.0%	1,971 9.9%	110 (5.5)	310 (15.5)
上富良野町	237.10	5,096	4,908	10,004	5,310	3,381 33.8%	1,052 10.5%	63 (6.3)	125 (12.5)
中富良野町	108.65	2,152	2,427	4,579	2,149	1,709 37.3%	515 11.2%	27 (5.9)	75 (16.4)
南富良野町	665.54	1,167	1,121	2,288	1,319	757 33.1%	230 10.1%	6 (2.6)	37 (16.2)
占冠村	571.41	840	751	1,591	1,148	325 20.4%	98 6.2%	3 (1.9)	13 (8.2)
計	2,183.41	18,697	19,714	38,411	20,528	13,145 34.2%	3,866 10.1%	209 (5.4)	560 (14.6)

管内面積・人口など
※面積：北海道統計書（令和4年度）
※人口、世帯数、65歳以上人口、0～14歳人口：北海道総合政策部地域主権・行政局市町村課調
（令和6年1月1日現在）
※出生数・死亡数：北海道保健統計年報（令和4年）

4

富良野地域の訪問看護ステーション

R5.10現在～　R7.5現在までの変化

事業所名	訪問地域	24時間体制	その他
老健ふらの訪問看護ステーション	富良野市、上富良野町、中富良野町 南富良野町、占冠村	有	介護老人保健施設ふらの指定居宅介護支援事業所併設。リハビリ有
ふらの訪問看護スーション青いとり	富良野市、上富良野町、中富良野町 南富良野町、占冠村	有	ふらの西病院、介護相談センター青いとり併設、リハビリ有 ケアプランセンター併設
富良野地域訪問看護ステーション	富良野市、中富良野町 南富良野町、占冠村	無	R5．12月～ 占冠村の訪問看護再開
上富良野訪問看護ステーション	上富良野町、中富良野町	無	中富良野町にもエリア拡大

看護師の確保困難の影響

・平成30年　6か所＋サブステーション　ケアプランセンター併設
・令和2年　　5か所
・令和5年　　4か所　⇒　**看護師不足、病棟に移動、育児休暇等全ての事業所が事情を抱え、ニーズに対応できない状況があった。**

R7.5現在は、　全ての地域をカバーしています

5

2　在宅ケア支援体制の課題を克服するために取組んでみたこと

看護師不足・確保困難の課題解決は難しい・・

地域の課題は？
住民（患者・家族）に何がおこっているか・・

役に立てる取組は何だろう？

6

在宅ケア支援体制の課題

R5.4月～5月　関係者から地域の情報が届く

○○町のケアマネが困っている・・・・・・。
訪問看護を頼みたいが・・・・・・・・・・・・・。
待機者数等まとめて町担当者や地域ケア会議で検討予定・・・。

患者さんは自宅に戻れないのか？

必要な方に、訪問看護が届けられない？！！

7

在宅ケア・看護連携推進・人材育成等
企画総務課保健師の立場で

（自分自身に言い聞かせていること）

1　富良野地域の現状を捉える。
　地域で何が起きていているのか。関係者はどのように対処しているのか。
　　調査、聞き取り、打ち合わせ、インタビュー、会議、研修
2　富良野地域の特徴を捉えて、確かめる。
　　現状と課題、強みを、関係者と共有する。
3　何とかしたいと考えている関係者と繋がる。
　　課題を共有する過程で、地域の強みも分かちあう。
4　一緒に考え、知恵を出し合う。
　　様々な機会や事業を繋げて、策を練る（考える）。
5　市町村と協働で事業を企画実施し評価する。
6　地域の取組や状況の変化にアンテナをたて動きを捉える。

関係者が語る言葉をそのままお借りしながら現状課題を確認・共有する。

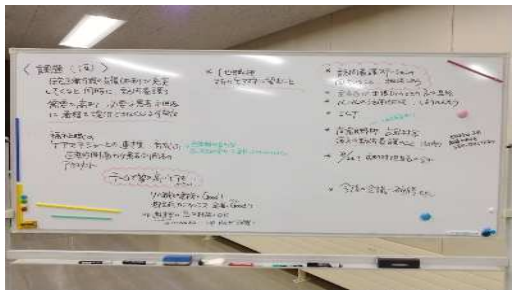
良いことあるにちがいない

8

富良野地域訪問看護ステーション懇話会
～まずは訪問看護が集まり話合おう～

日　時　令和5年7月12日（水）
参加者　7名　（内1名は健康支援係から〇〇町担当保健師参加）
主目標　地域の現状と訪問看護の状況の相互理解
　　地域課題解決に向けた看護連携と多職種連携推進に係る方策の意見交換
運　営　参加者が主役、自由な質疑応答と意見交換の時間とした
　　事前ヒアの結果を踏まえて話合いの項目や記録用紙は一応準備したが、
　　流れに任せてあとで整理し確認してもらうことにした。

会場セッティング
話合の最中は皆真剣活発で撮影忘れた



9

訪問看護ステーション懇話会における
現状と課題の共有、対応策の検討

富良野地域の特徴

住民が、高齢になり医療介護が必要になっても、最期まで在宅で過ごしたいという意思決定（選択）がしづらい地域

現状と課題

在宅医療介護の支援体制が充実してくると同時に、訪問看護の需要が高まり、現在は必要な患者に訪問看護を提供できなくなる恐れがある。

1番困るのは、
患者さん、利用者さん

10

話し合いの結果 (抜粋) ～全てのステーションに共通する話題・困りごと～

(1)遠方の訪問看護について

・〇〇町で冬期間だけでも訪問看護師の送迎手段を確保してもらえないだろうか。
例)高校生の送迎バス

・看護師の有資格者が〇〇町に住んでいるはず、訪問看護師として採用したい。

(2)ケアマネジャーとの連携について

・ケアマネジャーに訪問看護や医療的なことを伝えて効果的に看護を提供したい。

(3)看護師等の人材確保について

・確保対策は困難な状況が続いている。自治体の移住対策や住居の貸与等取り組んでもらえないか。

・離職防止も大事。でも、新たな患者を受け入れられないのは問題

(4)在宅医療の医師不足について

・〇〇先生が倒れてしまうので過度な負担をかけるのは禁物。

・全道で在宅医療をやりたいと思っている医師はいても富良野に来てもらえない。

懇話会終了後の取組

(1) については、個別に〇〇町に検討依頼

(2) については、市町村と課題共有のうえ研修やケアマネと訪問看護の研修や対話の機会をもつ。ケアマネジャーはどう思っているのだろう？？⇒インタビュー

(1)～(4) を含めて、訪問看護ステーション懇話会の結果は、市町村高齢者介護担当者会議で共有して引き続き解決策を検討する。

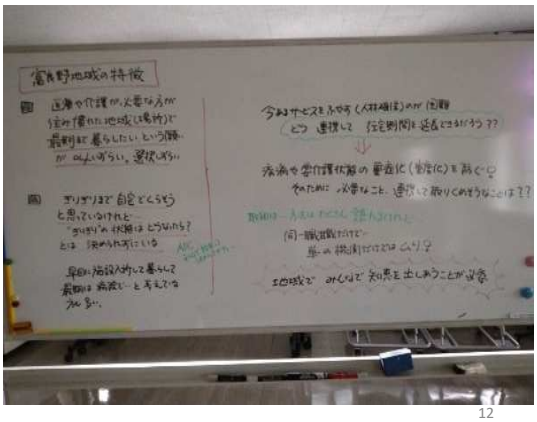
11

富良野圏域高齢者介護担当者会議 R5.8.24

～訪問看護ステーション懇話会の報告の後続けて課題解決策を検討～

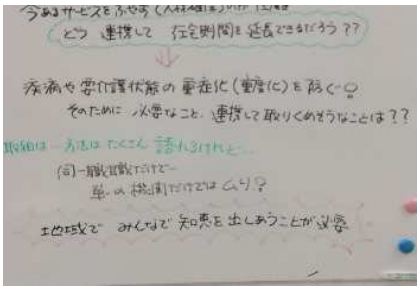
富良野市
上富良野町
中富良野町
南富良野町
占冠村
富良野保健所　　計8名

富良野地域の特徴(現状と課題)を共有



12

知恵を出し合う



住民はギリギリまで、自宅・在宅で過ごしたいと思っている。
自宅で最期まで、という意思決定（選択）難しい現状。
ギリギリになるまで、どのように暮らしたいと考えているだろう？
人生会議は普及しているか？？

様々なアイディア

ケアマネジャーの人材育成に関すること
　研修、地域ケア会議、個別の事例検討会
多職種の連携促進に関すること
　富良野地域医療介護連携ルールの復活、ICTによる情報連携
重症化予防・介護予防等に関すること
　急性期医療機関もない中で、心疾患・脳卒中等生活習慣病の住民に何が起きているか

13

ケアマネジャー等関係者へのインタビュー

- **訪問看護は、よっぽどでないとお願いしていない。**
  退院する時に決まっていることが多い。→ 病院連携室との連携
- 単価も高く、他のサービスが利用できなくなる。忙しそう。
  服薬管理や入浴介助はヘルパーでもできる。
- 遠いので、お願いするのも申し訳ない。→ 訪問看護への気遣い
- **住民には、自宅で最期まで、という発想はないと思う。**
  最期は病院、施設に入っても病院で最期を迎える。
- ときには、家族や医師に説得してもらう。

でも、本当は、
高齢になっても、病気になっても、
ぎりぎりまで自宅で
長く暮らしたいと思っている。
でも、富良野は難しい・・・

本人の希望は？？

ACP 人生会議

14

地域在宅医療看護講座
（富良野市地域包括ケア研修　協働企画開催）

ケアマネジャーと訪問看護の連携を充実させたい・・・

開催日　令和5年9月19日
対　象　富良野市内の地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の
　　ケアマネジャー
内　容　富良野市の希望も組み合わせ、
　　訪問看護と訪問薬剤師を講師に開催

講　師　富良野地域訪問看護ステーション
　　所長　奥野　泉　氏
⇒　訪問看護ができること、利用の仕方、医療保険と介護保険
　　事例紹介、連携、一緒によりよいケアを・・・
　　気軽に、相談、連絡ください・・・・・

15

令和6年度　地域包括ケア研修「多職種合同研修会」

テーマ　患者・利用者（ご本人）が望む療養生活を支える
～　富良野地域で、ぎりぎりまで、願いを叶えるために　～
―　人生会議の実践と在宅ケア　―

日　時　：　令和6年11月26日（火）
場　所　：　富良野協会病院　講堂　　参加者　：　58名

講演・実践報告①「富良野協会病院の人生会議」

講師
富良野協会病院
看護部長　吉田容子　様

富良野協会病院の「人生会議ノート」と
「もしもシート」について
院内の体制づくりから、準備、実践事例　等
のご紹介

富良野圏域での、共通ツールになるといいなぁ

16

講演・実践報告②
「多職種で終末期の一人暮らし高齢者を支えた事例」

講師
上富良野訪問看護ステーション
所長　大村和恵　様

上富良野町で、
一回は家に帰りたい、と話した終末期の患者様を、病院、ケアマネ、ホームヘルパー、訪問看護、友人、近隣、遠方のひとり息子とともに、ぎりぎりまで、在宅療養生活を支えた。
日常の対話の中で、ご本人の希望をくみとり、多職種チームで、自宅療養生活の願いを叶えた

上富良野町の多職種連携のチーム力、
ネットワークはおみごと、ステキな事例

17

グループワーク・全体会
テーマ「富良野地域で取り組む人生会議（ACP）」

取組の情報交換
人生会議、連携の大切さを共有
でも実際にやるには・・・
タイミングが難しいなぁ・・
などなど

18

令和6年度　地域のうごき

富良野地域の医療や在宅ケア体制
訪問看護を何とかしなければと･･･と思っている
関係者や、関係機関が、いろいろなところで
いろいろなかたちで　うごいていく

地域がうごく････　話あいがすすんいく

行きつ、戻りつ、　少しずつ

○各訪問看護ステーションの状況の変化

○病院、診療所の変化

○市町村

現状と課題を、地域で共有して考え合う、知恵を出し合っていると、
地域全体が、良い方向目指して、動いていた。

19

令和7年度富良野圏域訪問看護ステーション懇話会

開催日　令和7年5月19日（月）
場　所　北海道富良野保健所会議室
参加者　訪問看護ステーション所長　4名
　　保健所2名

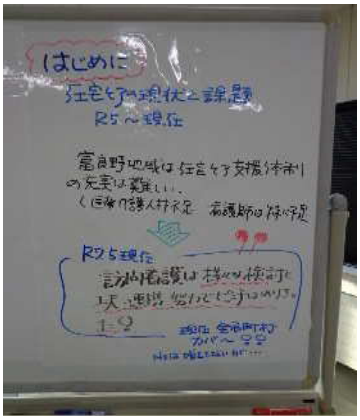
【目　的】
　長期に渡る療養や介護を必要とする住民ニーズに対応するため、 医療機関や訪問看護 ステーション等における看護職員相互の連携を推進し、地域の看護サービスの質の向上と支援体制の充実図る。

【目　標】
（1）管内の訪問看護ステーションの取組み状況等について相互理解する機会になる
（2）業務継続計画(BCP)について情報交換を行い課題確認と解決策の話し合いができる。
（3）地域の課題解決に向けて、看護連携と多職種連携の推進に係る方策を意見交換できる。
（4）北海道医療計画富良野地域推進方針の在宅ケア関連の取組等について周知する。
（5）管内の訪問看護ステーション同志の連携を深める機会になる。

20

富良野地域の在宅ケアの現状と課題

～令和5年度から現在迄を共有～



富良野地域は、住み慣れた場所で最後まで暮らしたい願いは叶いずらい
入院して治療が終わっても自宅に帰れない、施設も空きがないという状況も・・・
令和5年度は看護師不足で遠方に訪問看護が提供できな等課題があった。

訪問看護は各事業所で検討し、集まって相談し、どうしたら対応できるか知恵を出し合った。
その結果は

全ての市町村に訪問看護を提供できており、ピンチを乗りきった。

訪問看護の話し合いは、次のステージへすすんでいます

21

訪問看護の普及・関係機関との連携

～令和5年度から現在迄を共有～

看護師不足はかわらないが、

訪問看護ステーションは、
質の高い在宅ケア（看護ケア）を提供するために
各種研修会等で、訪問看護の専門性を普及し連携を呼びかけた。

訪問看護ステーション間の連携も深まり、関係者の信頼も熱くなった。

そして、災害発生時等BCP発動時も、協力して訪問看護を提供できるように、
R7.1月から**「連携型BCP」「地域BCP」**の必要性等の話合いを開始している。

22

３　訪問看護について、

感じていること、期待したいこと

訪問看護サイコー

23

訪問看護に繋げたあとの、
ご本人とご家族の感謝のことば

・毎週家にきて良くしてれる。
・看護師さんの言うことには耳をかす（聞く）。
・入院（悪化）しなくなった。
・医師に相談したいことを聞いてくれた。
　説明してくれた。
・来てくれたとき、ほっと休憩できる。
・悪くなったとき連絡したらすぐきてくれた。　など

繋がりづらかった方
のことば

その方にとっての看護師さんのイメージは？
訪問看護のイメージがついていない！！

・看護師さんに来てもらう程悪くない
・自分でできる（身の回りのこと、医療ケア）
・病院に通えるから必要ない
・病院から来るのかい？　病院の看護師さん？

24

多職種連携協議の場で
福祉介護専門職の方たちのことば

医療と介護の連携
医療の敷居
壁がまだある

看護師さんは忙しそう、
申し訳ないわぁ～　などなど・・

訪問看護と連携した関係者のことば

一緒にチームでケアをして
体験を振り返る

・最初は、緊張したけど、何でも相談できるようになった。
・訪問看護を利用していなくても、病気のこととか聞けるようになった
・主治医と連絡とるときにアドバイスもらった。難しいことは直接聞いてくれた。
・訪問看護師さんと一緒にお線香あげに行った。ひとりでは言葉に詰まっただろう。
・病状が安定した良くなった。在宅期間が延長した。
・本人は拒否していたが、何とか一緒に入ってもらえて、良かった。
もし、訪問看護が入ってくれていなかったらと思うと・・・

25

良かったなぁ～と思えるできごと
富良野の訪問看護が期待に応えてくれていること

- 遠方への訪問看護等が困難なピンチの状態（広域課題）について、検討を重ね、現在は全地域をカバー
  ⇨ ステーション間連携の成果
- 地域ケア会議で検討して、他の職種に役割を移行
  多職種連携で在宅療養生活支援
  ⇨ 他の職種育成、チームケア
- 訪問看護の普及に協力
  ⇨ 研修会講師等
- 緊急時や先を見越して、検討課題を提示
  ⇨ 災害発生等BCP発動時の連携の検討

26

引き続き、訪問看護に期待したいこと

・富良野地域は医療と介護の敷居はまだ高い。
　医療的なこと、ぜひ頼ってちょうだい！！　とメッセージを引き続き
・福祉職のケアマネさんに、
　訪問看護のことを伝えて、一緒によりよいケアを体験できるように
・訪問看護の制度的なことは難しい。
　事例に合わせて、可能な利用方法の知識、情報提供を
・訪問看護で、病気の重症化予防、介護の重度化予防を
・住民さんの看護師のイメージは違いがある。
　そのことを踏まえて、訪問看護の専門性をケアマネさん方が
　説明できるように。
・地域ケアシステムの構築、在宅支援体制の充実を目指し、
　理想の連携のかたちを共有しながら、一緒に考えて欲しい。

27

関係者と一緒に取り組みたいこと、会議等で出席者の方に伝えていること

関係者が語る言葉を
そのままお借りしながら現状課
題を確認・共有

富良野地域は、医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域（場所）で最期まで暮らしたいという願いは叶いずらい。

住民は、ぎりぎりまで自宅で暮らしたいと思っている。
その、ぎりぎりとは・・・？　ぎりぎりまでどう暮らしを支えるか。

ぎりぎりのときを、先延ばしできないか・・・？
地域で知恵を出し合いたい

富良野地域の課題は山積で解決困難なこともたくさんありますが、　訪問看護と多職種が、患者家族、住民の願いを叶えた「好事例」や、　工夫してうまくいった事業等　「強み」　に注目して、知恵をしぼりあってみます

これからもよろしくお願いします。

28